

平成30年度 北海道子どもの未来づくり審議会から知事への提言 議事録

日 時：平成31年3月22日（金）11:00～11:15
場 所：知事応接室

開会・委員紹介

【子ども子育て支援課 鈴木課長】

本日は、北海道子どもの未来づくり審議会におきまして、子どもたちの目線から北海道の少子化対策に関して検討し、提言した内容を提言書にまとめて提出していただくため、審議会委員と子ども部会委員の代表として、二人にお越しいただきました。

委員のお二人を、ご紹介させていただきます。

審議会子ども部会の、野村部会長です。

同じく、子ども部会の元岡副部会長です。

【高橋知事、野村部会長、元岡副部会長】

よろしくお願ひします。



提言書提出

【子ども子育て支援課 鈴木課長】

それでは、子ども部会の元岡副部会長から、提言書を知事にお渡しいただきたいと思ひます。

【元岡副部会長】

私たち、17名の子ども部会委員が検討した提言です。よろしくお願ひします。

（元岡副部会長から知事へ手渡し）

【高橋知事】

ありがとうございました。しっかり勉強させていただいて、政策に反映できるものは反映したいと思ひます。

（写真撮影）



【子ども子育て支援課 鈴木課長】

それでは、どうぞご着席ください。



提言書の趣旨説明

【子ども子育て支援課 鈴木課長】

それでは、野村部会長から今回の提言の趣旨について、ご説明をお願いしたいと思います。

【野村部会長】

それでは、簡単に提言書の趣旨を説明させていただきます。

平成30年度は、中学生・高校生を委員として審議会に子ども部会を設置しまして、「私たちが考える北海道の未来」をテーマに、子どもたちの視点から人口減少問題への対応としての少子化対策の推進について、昨年8月と12月の2回にわたって協議・検討をいたしました。その協議結果を審議会で報告させていただき、議論を行い、取りまとめたものが先ほどお渡しした提言書でございます。

その具体的な内容につきましては、「SNS等の積極的な活用や情報発信方法の工夫により、行政の窓口や地域の子育てに関する情報にアクセスしやすくし、安心して子育てができる環境づくりを進める」など、3つの項目を提言書にまとめておりますので、少子化対策を行う上でご検討くださるようお願いいたします。

【子ども子育て支援課 鈴木課長】

それでは、具体的な内容につきまして、子ども部会の元岡副部会長からご説明をお願いいたします。

【元岡副部会長】

それでは、私から、ただ今提出させていただいた提言書の具体的な内容について、説明させていただきます。提言書の3ページをご覧ください。子ども部会の検討の中では、たくさんの意見やアイデアが出ましたが、最終的に3つの提言項目としてまとめました。

4ページをご覧ください。1つ目の提言として、「SNS等の積極的な活用や情報発信方法の工夫により、行政の窓口や地域の子育てに関する情報にアクセスしやすくし、安心して子育てができる環境づくりを進める」ことを提言します。

この提言のねらいは、「誰でも気軽に子育ての相談ができる手段を増やしたり、多くの人が子育て支援に関する行政や地域の情報を感じることができるようにしてほしい」ということです。手立てとして、「子育て中の方々が、気軽に育児の相談ができ、子育てに関する必要な情報がスムーズに得られるようLINEやアプリなどを活用した子育てをサポートするシステムを構築する」ということなどが考えられます。

次に、5ページをご覧ください。2つ目に、「若い世代が、自分たちの生き方や将来について考える機会を増やす」ことを提言します。

この提言のねらいは、「若い世代が自分の将来について具体的なイメージを持てるようになってほしい」ということです。手立てとして、「結婚、妊娠・出産、子育てに関する様々なエピソードなどを集め、若い世代向けにホームページやSNSなどで紹介」したり、「中学生や高校生などの若い世代が、学校の授業の中で子育てについて考える機会を増やす」ことなどが考えられます。

次に、6ページをご覧ください。3つ目に、「地域における多世代交流などにより、人々が支え合える

関係を築き、子育てを応援する地域づくりを進め」たり、「企業のワーク・ライフ・バランスの取組を推進することにより、子育てしやすい職場環境の整備を進める」ことを提言します。

この提言のねらいは、「地域住民が互いに顔の見える関係を築き、助け合いや人と人とのつながりを大切にすることで、子育て世帯が抱える様々な負担感を軽減し」たり、「働きながら、子育てしやすい企業を増やしたい」ということです。手立てとして、「地域において、子どもから高齢者まで幅広い年代が集い、交流できるイベントを開催することにより、子育て世帯への関心を高めるとともに、住民相互の助け合いの気持ちを育み、高齢者など地域住民による子育て支援のボランティア活動の活性化を図る」ことなどが考えられます。

これらの提言やアイデアは、私たち中学生・高校生が真剣に話し合った結果です。広く道民の皆様に関心してもらい、私たちが暮らす北海道の今後の少子化対策に、できるだけ反映してほしいと思います。

【子ども子育て支援課 鈴木課長】

ありがとうございました。

【高橋知事】

ありがとう。

知事からのお礼の言葉・懇談

【子ども子育て支援課 鈴木課長】

それでは、知事から一言お願いいたします。

【高橋知事】

まず、「私たちが考える北海道の未来」というテーマを、今回皆様方にご議論いただいた経緯は、部会長なり事務方からお聞きになられたかと思うのですが、今3月ですけれども、暦年でいうと去年、年度でいうと今年度が「北海道命名150年」であるこの年に、今を生きる若い人たちに、自分たちが生きる北海道の未来をどのように描くのか、ということを積極的にご議論いただいた。そしてその中から、この審議会の主たる議論のポイントである「少子化対策」につながるヒントがいただければという思いで、皆様方にご議論いただいたという経緯であります。

去年の8月に元岡さんを含め、子ども部会委員の皆様にも、子どもといっても皆さん中学生や高校生、体も大きくてしっかりした方々ばかりですが、お会いをして、その後、8月と12月に、ご議論をいただいて、3つの提言をまとめていただいたということ、本当にありがとうございます。

今の時代ですから、提言の1にあるように、SNSなどの情報ツールを使おうというのは、皆様方の世代の発想としてなるほどだと思います。私も道庁でもツイッターであるとかフェイスブックであるとか様々な形で、実際に窓口に来ていただくことがなくても、スマホがあればアプローチできるような形での政策情報の発信をしているところではありますけれども、また皆様方の思いを踏まえて、我々としてどういことができるか考えていきたいと思っています。

それから、提言2として「自分たちの生き方や将来について考える機会を増やす」。これもむしろ我々大人世代から子ども世代に心からお願いをしたいことでもあります。例えば、釧路では、150年経ったわけ



ですよ。実はその150年の前は、日本の先住民族であるアイヌの人たちが北海道に住んでいて、この素晴らしい景観、自然環境を守っていただきながら、生活を展開しておられた。そういうもっとすごく長い歴史にも思いを致しながら、今を生きる我々北海道民の資産、遺産というものを踏まえて、それを守りながら、さらにこの北海道を、例えば50年後、その頃、元岡さんも還暦を超えます、知事になっているかもしれない、どういう北海道になっているか、したいか、そういうことを皆さんでご議論いただくのは本当に素晴らしいことですし、そこから我々の政策の色々なヒントが出てくると思います。

それから提言の3つ目は、「多世代交流の促進」あるいは「企業のワーク・ライフ・バランスの取組」など子育てしやすい地域・職場環境の整備という、大人世代でも議論になっている大変重要な問題であります。例えば、全然関係ないと思われるかもしれないけれども、今コンビニで24時間営業からそうでない形に見直そうという議論がニュースなどで出ています。本当に必要なサービスであれば続けられるといいですけども、真夜中なり明け方なり働く方々がおられるわけです。そういう方々の職場環境の整備にもなるという視点で考えていただくなど、ニュースなどに出ているいろいろな事象を自分たちで8月と12月にご議論いただいた視点から見るとどういうふうにか考えたらいいかと、これも皆様方でぜひOB会みたいなものを作って議論していただきたいと思います。

いずれにいたしましても、一つ一つ考慮するに足るご提言でございますので、担当局長もおります。しっかり我々の政策に反映できるものは反映していきたいと思います。本当にありがとうございました。

【子ども子育て支援課 鈴木課長】

お時間があれば少しご歓談いただければと考えていたのですが、時間の都合上、記念の写真撮影に入らせていただきたいと思います。

【高橋知事】

一つだけ。元岡さんは、もう就職とか決まったんですか？ それとも進学ですか？

【元岡副部長】

進学です。今週、合格発表があったんです。第一志望の高校に合格しました。

【高橋知事】

良かったです。釧路の中に志望校があったのですか。

【元岡副部長】

はい。

【高橋知事】

良かった。この先、札幌なり東京なり、いろいろなところへ出て経験を踏むのも重要かもしれませんが、最後はできれば釧路に戻っていただけると良いですね。市長も喜ぶのではないのでしょうか。どうでしょうか？

【元岡副部長】

(コメントなし)

【高橋知事】

まだそこまで考えていないかもしれませんね。ぜひ、考えてみたらいいと思います。結論はなかなか出ないと思いますけれども。

【元岡副部長】

はい。

【高橋知事】

ありがとう。

写真撮影



【子ども子育て支援課 鈴木課長】

では、先ほど提言書を渡す時にも撮りましたが、最後にもう一度記念写真を撮らせていただきたいと思っています。

(写真撮影)

【高橋知事】

今日は一人で来たのですか。

【元岡副部長】

いいえ、母とです。



【高橋知事】

お母様、おつかれさまです。せっかくですから、お母様も一緒に。

(写真撮影)

【高橋知事、野村部会長、元岡副部会長、元岡副部会長のお母様】

ありがとうございました。

閉 会

【子ども子育て支援課 鈴木課長】

以上をもちまして、北海道子どもの未来づくり審議会からの知事への提言を終了いたします。